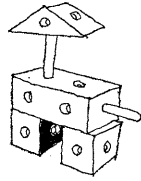
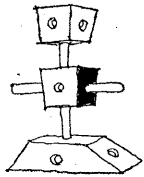


五歳児の記録⑨



二学期

磯部景子



女児四名が先生といっしょにタンバリンを整理する。整理しおわると、四人はいっしょに机に向かって、絵をかきはじめる。

男児が十名くらい保育ブロックで宇宙ステーションなどをつくって夢中になって遊んでいる。

女児四名がままごとコーナーで遊んでいる。

先生は旗をつくれるように準備をする。

子どもが旗をつくりはじめる。

庭

クラスの半数くらいの子どもが庭で遊んでいる。

だんだん暑くなって、庭にいる子どもたちが汗で、びっしょりになる。

先生は子どもたちに洋服を着かえさせるのにいそがしくなる。

九時五十分から幼稚園全体で運動会の練習をする。

先生といっしょに仕事をする

九時二十分

保育室

先生は新しく入ったタンバリンを箱から出して、からになった箱を整理している。

女児四名が先生のところに来てみている。

先生「㊸ちゃん、そのタンバリン、先生さっき、下の方はちゃんと入れたけれど、上の方がばらばらになっているから、それを入れなおして下さい。」と㊸にいう。

子どもたちは、タンバリンをきちんと箱の中に入れる。それから

九月十九日 土曜日 あつい

幼稚園全体で運動会の練習

保育室

先生はタンバリンを整理している。

袋も整理する。

先生はあき箱を整理しおわる。

先生「あら、どうもありがとう。きれいに入ったわね。まあ、袋の方もきれいになったこと」といって、子どもたちが自発的に袋も整理したのを感じてみる。

先生は今までつかっていた古いタンバリンの入っている箱を職員室に持っていこうとする。

④「せんせい、てつだう」といって、④は先生といっしょに箱を持つ。他の三人の子どももいっしょに持つ。

先生「あら、そう、じゃ、お願いしますね」といって、先生は子どもたちといっしょにタンバリンを職員室に運ぶ。

四人の子どもたちは、職員室から帰ってきて、いっしょに机に向かって、絵をかきはじめる。

Jが旗をかく。

先生が職員室から帰ってくる。

J「ねえ、せんせい、おもしろいよ」といって、Jは保育ボックスでつくったこまを机の上でまわしてみせる。

先生はおもしろそうに、Jのつくったこまをみる。

ちょうどその時、砂場で遊んでいたNが庭から保育室につづく石段のところ立って先生を呼ぶ。

「せんせい」

Nは砂場であそんでいるうちに、あしのすねあたりからどろんこになって、先生にたすけを求める。

先生はNの声をきいてNをみる。

Nは足を先生にみせる。

先生「はい、あ、よごれたの？」とNのところに行く。そしてNとはなじながらNのあしをふく。

先生「くつ下をとりかえましょうね。ああ、まだやるんだったら、そのままやって、今度おしまいにする時、とりかえるといいわ」

N「もう、おしまいにするの」

先生「そう、じゃ、ぬいでとりかえましょう」という。

Nはくつ下をぬきはじめる。

先生はJのいるところにもどってくる。そして、机の上に包装紙を敷く。その上に、旗をつくるように切った紙とマジックをおく。

先生はいすにすわる。

Jが先生のそばにきてすわる。

J「どこのかくの？」

先生「そうね、どこでもいいわよ」

J「どこだか、わかんないな」

先生「あの本、出してあげましょうか」といって、旗の本のことをJに気づかせる。

J「うん、あの本がないと、わかんないよ」

先生は各国の旗ののっている本を持ってきてJの前にひろげておく。

Jはしばらく本をみていたが、ようやく旗をかきはじめる。先生はJのそばにいて、旗にするための紙を切っている。

Jはまだ旗を一枚もかいていない。Jは先生に自分でくふうしてつくったこまを得意になってみせる。先生はJのつくったこまに興味を持ってみる。

先生が旗をつくれるように準備をしていると、Jは旗に興味を示しだす。Jが旗に興味を示しだしてから先生はJと会話をかわしながら、旗の本を持ってきたりして、Jが旗への興味をふかめることができるようにする。

幼稚園全体で運動会の練習

十四日以来、毎日運動会の遊戯の練習がある。

「今日はレコードがなかったら、庭にあつまって幼稚園全体で、運動会の練習があるのよ」と朝、先生は子どもたちと顔を合わせた折に話しておく。

九時五十分

庭

クラスの半数くらいの子どもが庭で遊んでいる。

先生も庭に出てくる。先生は子どもたちの方に歩いていく。

汗をたくさんかいている女兒の上着やブラウスをぬがせる。それ

から職員室に替えのブラウスやシミーズをとりに行く。

レコードがなりはじめる。

B「あっ、なった!」

F「まだいいんだよ、きつとちがうよ」

保育室にいる子どもも庭にいる子どもも遊びつづける。

先生はレコードがなりだしたのをきいて、いそいで職員室から保育室に帰ってくる。

先生「あら、あら、どうしたの? レコードがなかったら庭に並ぶのじゃなかった? さあ、はやく庭に出て並びましょうね」という。

先生に促されて、子どもたちは庭に出はじめる。

先生「帽子をかぶっていない方は、帽子を持っていらっしやい。おおいそぎで」

子どもたちは帽子をとりに行つて、庭に出る。

先生はいそいで、子どもたちのぬいだ洋服を整理して、タンバリンの箱を庭に出す。子どもたちにひとつずつタンバリンをとらせ、子どもたちを四列に並ばせる。

先生「さあ、横のかたの顔をみてちょうだい。Aちゃん、先生のおはなしをきいていないとわからなくなってしまうわよ。さあ、

横のかたの顔をみて、Kちゃん、よそみしないで。横のかたとならんで歩くのよ。じゃあ、小さい前へならえをしましょう」と

といって、先生は横と縦の列をそろえる。

十時から四十五分間、幼稚園全体で音楽行進をする。

先生に促されて、子どもたちは庭に出る。しかし集まる時に、いつものようなびんしょうきはみられない。

集まる合図のレコードがなっても、子どもたちは「まだいいんだよ。きつとちがうよ」といって、まだ遊んでいたい気持ちを表現している。

いったん練習がはじまると、先生の指導のもとに子どもたちは楽しそうにしているが、連日の練習で子どもたちはおちついて遊ぶことができないようだ。

○集まったあとにすることがらは子どもの期待にかなっていないか。

・子どもにとって興味のあることか。

・子どもにとって子どもの能力でできることか。(そうでないなら先生にたよっているほかはない)

・具体的にどんなことをするのか子どもにわかっていることか。

○子どもの活動に制約が多くなっている。

・運動会の練習のために、クラス全体、あるいは幼稚園全体で時間をきめて行動しなければならない。(子どもにはその必然性はない)

・みんなが同じ行動をしなければならない。(はずれた行動をすると先生から注意をうける)

・みんなできつしよに新しい技術をおぼえなければならぬ

い。

四列に並ぶ。たて、よこ、まつすぐに並ぶ。

遊戯をおぼえる。

○先生の気持ちにゆとりがなくなる。

九月二十一日 月曜日 霧・雨

運動会の練習

おべんとうがはじまる。

九時五十分まで

あそぶ

九時五十分～十時五分

片づけ

みんな「自動車運転の歌」をうたう。

十時五分～十一時十分

幼稚園全体で運動会の練習

音楽行進

動物の行進曲

きゅうびいの歌の遊戯

つなひき

ラジオ体操第二

十一時十分～十一時三十五分

あそぶ

十一時三十五分

おべんとう

おべんとうを食べおわった人からあそぶ。

一時十分

集まって体操をする。

行進

一時三十分

帰園

九時十分

保育室

先生は今まで休んでいた子どもの母親から連絡をうけている。

男児九名が保育ブロックで遊んでいる。

男児二名、女児七名が絵をかいている。

保育ブロック

〇たちは色の組み合わせを考えて、飛行機を組み立てている。青と白だけを使って組み立てている子どももいれば、赤、青、白の配色を考えて、組み立てている子どももいる。

「これ、むげんばりきだよ」

「ぼくもだ」

「それじゃ、なかまだ」などといいながら組み立てている。

先生は〇の飛行機をみて、

「あら、これ、おもしろいわね、新型だわ」という。

先生は保育ブロックのところに子どもが大勢いるのをみて、

「ちょっとせまいらしいわ」といいながら机をよせて、場所を広くする。

保育ブロックは男児に占領されている。女児が時々近くにきて、

男児がしているのをみている。

先生は子どもたちの様子をみて、

「女のかたにも、かしてあげてね」という。

先生は子どもが遊んでいるようすをみながら、遊具をおきかえたりして保育室を整備する。

子どもたちは、保育ブロックの扱い方に、次第になれてきたようだ。必要以上にたくさん確保することもなくて、はじめのような、混乱はみられない。

今日は、ほとんどの子どもが、飛行機やエイトマンをつくらしている。

飛行機やエイトマンをつくりながら、お互いに仲間であることを確認しあっている。

できあがった飛行機やエイトマンを持って、おいかけっこをしたり、ぶっつけ合ったりする。

現在のところ、子どもたちはめいめい何かをつくっている。そしてめいめいがつくったものを持って、次の活動を展開しているようだ。

子どもたちの遊びがめまぐるしくかわる。

九時二十五分

先生は自動車運転の歌の二番の歌詞を黒板に書いている。

保育ブロックのところでは、ガソリン入れ、電話、飛行機ができている。

㊸は、ひとりで、だまって自分のひき出しの中を整理している。

紙に模様をかいて、きりぬいて自分のひき出しにはる。

㊹が本をよみはじめる。

㊺、㊻、㊼、㊽、㊾が本を読んでいる。

㊿、㊽、㊾が遊戯室に行く。

九時三十五分

先生はつなひきのつなを遊戯室に運ぶ。

㊿、㊽、㊾がままごとコーナーで遊びはじめる。

㊿が保育ブロックを組み立てはじめる。

㊽、㊾が保育室に帰ってくる。

九時四十分

㊽、㊾、㊿、㊽、㊾は遊戯室でスカイジムであそびはじめる。

九時四十五分

ほとんど全員の子が遊戯室で鬼ごっこをしている。

スカイジムで遊んでいた子どもたちが、保育室に帰って絵をかき始める。

㊽がままごとコーナーに来る。

ままごとコーナーの遊びのみつつづいている。

子どもたちが、あちこちとめまぐるしく移動するので、記録がとりにくい。

なぜだろうか。

月曜日の朝だからか。

運動会の練習が何日間かつづいて生活がおちついていないのか。

今朝の先生の活動は今日の予定がスムーズにすすむように予定をすすめるための準備にいそがしくして、朝のその時の子どもの活動とは、かけはなれた活動が多いからか。

九時五十分

お片づけになる。

先生は子どもたちがタンバリンをとるときにとりやすいように、タンバリンの入った箱を保育室のまん中に出す。

先生「おてあらいに行つて、いすにこしかけてね」

「はい」

先生「だれだか、いいお返事でしたね」

⑧が紙くずを拾ったりして片づけているのをみて、

先生「あら、まあ、⑧ちゃん、きれいに片づけて下さったわね」という。

子どもたちは片づけおわり、お手洗いから帰ってきて、それぞれ、四、五人ずつ、机に向かってすわる。

先生はピアノに向かう。

先生「きょう、おおいそぎで、『自動車の歌』をおぼえてちょうだい」といって先生はピアノをひきはじめる。

子どもたちは、先生のピアノに合わせて、だんだん歌いはじめる。

先生「あら上手ですね。よむだけじゃなくて、ふしがついているのね。それじゃ、もう一度、はじめからね」

先生も子どもも皆で最初からうたう。

次に各機のグループごとに向うたう。

先生「今度はUちゃんの机のかたね」といってUたちをみわたす。

先生「次は⑨ちゃんの机ね」と順々にうたっていく。

先生「今度は⑩ちゃんと⑪ちゃんのところ、ふたりね」といって、ふたりだけで机にすわっている⑩と⑪をみる。

次に先生が名ざして三人がみんなの前に出て、立ってうたう。

先生「今度は四人よ」といって、四人名ざす。名ざされた四人は前に出てうたう。

先生「もう一度、みんなであうたって、おしまいにしましょうね」

先生のピアノに合わせてみんなであうたう。

子どもたちは、がなりたててうたう。

先生「きれいな声でね」と注意する。

先生「今日、前に出てうたわなかったかたたちは、おかえりの時か、あした、うたいましょうね」という。

幼稚園全体で運動会の練習がはじまる。

十時五分

子どもたちは保育室の入口に一列に並ぶ。

先生は子どもたちにタンバリンを箱からとらせる。

先生はタンバリンを子どもたちにとらせながら、

「タンバリンを持って、たんたんとならさないのね」といってあらかじめ注意する。

その他、子どもたちを行動させる前に、箱からタンバリンをとるとり方、タンバリンの持ち方、使いおわって箱に入れる時の置き方などの注意をする。

「おく時も左手に持つのね。廊下にてたら四列になるのね」

子どもたちは先生のいわれたとおりタンバリンをとりながら、廊下に出る。

このごろは予定にしたがって、クラス中、あるいは幼稚園中でみんながいっしょに行動しなければならぬことが多いので、先生は子どもたちが混乱しないで次への行動ができるように、まえもって、こまごまと、子どもたちにやり方をはなす。

(タンバリンのとり方、持ち方、置き方、並び方など)
また、大勢の人が予定にしたがって行動するためにしてはいけないことがらも多くなっている。

(タンバリンを持ってもらさないことなど)

「下ナウ河のさぎなみ」の曲がスピーカーからながれてくる。
音楽行進がはじまる。

三歳児は鈴を持って二列に並ぶ。

四歳児はカスターネットを持って四列に並ぶ。

五歳児はタンバリンを持って八列に並ぶ。

子どもたちは先生の合図にしたがって、曲に合わせて歩きはじめる。
「歩くときは、よく手をふってね」など、歩き方の注意がある。

次に「動物の行進曲」の練習をして、それから「きゅうびいの歌」の遊戯の練習に移る。

「きゅうびいの歌」の遊戯は、ふたりで一組になってする遊戯で、時々、相手がみつからなくて、ひとりになってしまいう子どもがいる。

Uは相手がみつからなくて、ひとりで当惑して立っている。

先生「お友だちがいけない時はさがすのよ」といって、先生はUの手をひいて相手をさがす。

もう一度「きゅうびい」の歌の遊戯の練習をする。

遊戯の練習がはじまる前に次のような注意がある。

「お友だちがいなかったら、さがすのよ。そして、みつからなかったら、三人でもいいのよ」

「あらかじめおこりそうな事態を、先生が予測して、子どもにはなしておく、子どもは失敗感を味わわないで活動をつづけることができる。」

遊戯をおわって次に五歳児だけでつなひきをする。

「よういっていったら、しゃがむのね」など、つなひきの諸注意がある。

子どもたちは先生の合図にしたがってしゃがむ。そして、先生の笛の合図でつなひきをはじめ。

子どもたちはつなをひいているうちに、中腰になり、だんだん立ち上がってくる。

先生は真剣になって、

「しゃがんで、しゃがんで」と大きい声で子どもたちにしゃがむようにいう。

笛がなって、子どもたちはつなをおいて立つ。

「つなをひくときは、立ち上がらないで、しゃがんでするのよ」と、あらかじめつなをひく時の注意があつて、もう一度

つなひきをする。

今度はまえほど立ち上がる人はいない。

次にラジオ体操第二をする。

十一時十分に運動会の練習をおわる。

十一時十分

運動会の練習をおわって、子どもたちは保育室に入って遊びはじめ。朝、していた遊びにもどっていく子どももいる。

朝、遊んでいた場所にもどっていく子どももいる。じきおべんどうの時間になったことを考えると、朝と同じ遊びをしているからといって、果たして、どれだけ遊びが深まったか疑問におもう。

先生が保育室に入ってくる。先生は子どもたちの机に向かってマジックで紙に何かかきはじめ。

子どもたちが先生のまわりに集まって、先生とはなしたり、子ども同士ではなしたりしている。

先生はまわりにいる子どもたちとはなしながら、紙にマジックで並ぶときの相手の子どもの名前をかいている。

子どもたちは先生がかいた名前をよんでいく。

「あいての方がわかるでしょう」と先生は子どもたちという。

十一時三十五分

おべんどう

今日から午後の保育がはじまる。

「お片づけしましょう。Fさん(どうばん)みんなに『お片づけ』っていつてきてちょうだい」といって、先生は当番のリボンをつけてあげる。

Fはみんなに「お片づけ」といって歩く。

先生はぞうきんをしぼって当番にわたす。

当番(男女、各一名)はぞうきんで机をふく。

他の子どもたちはおぼんをうけとるために、一列に並ぶ。

先生はおぼんを一枚ずつふきんでふいて、子どもたちにわたす。

女児が何人か、まだ片づけている。他の子どもたちは、おぼんを机の上にくぼる。

F「おわかりました」

当番の子どもも、他の子どももすっかり準備をおわる。

先生「じゃ、おべんどうを持っていらっしやい。はしらないで、い

っていらっしやい」

子どもたちは棚からバスケットを持ってきて、バスケットから、めいめいのコップを出して、うがいをする。

先生は小さいやかんをふたつ、戸棚から出してくる。

子どもたちはうがいをするために水のみ場の前に並んでいる。

先生はやかんを洗いくる。

先生「ならばないでわるいけれど、ちょっと、ごめんなさい。やかんを洗わせてね」といってやかんを洗う。

先生のそばに当番の子どもがふたりきている。

先生はお湯の入っている大きいやかんから小さいやかんへお湯を

うつす。

先生「入れますよ」と当番の子どもにいいながら、お湯を入れる。

当番はお湯の入った小さいやかんを持って、みんなのコップにお湯をついであるく。

他の子どもたちは机にすわってまわりの子どもたちと楽しそうにはなしをしている。

当番はお湯をくばりおわって、皆の前に立つ。

当番「いただきます」といって席につく。

みんなおべんとうを食べはじめる。

九月二十二日 火曜日 くもり

保育ブロック

男児八名、A、R、I、M、E、U、Y、Nが保育ブロックで遊んでいる。

ロボットをつくっている子どもや、田型の同じ型だけをつかっ
て、雪の結晶のような形をつくっている子どもや、動物らしいもの
をつくっている子どもがいる。

現在のところ、男児は、朝、登園するとまず、保育ブロックで遊ぶ子どもが多い。

今日ロボットをつくっていた子どもたちの遊びの内容は、
ロボットをつくる——打ち合う——おいかける——にげる

——保育室内を走りまわる——ガソリン入れをつくる——

ガソリンを入れるなどである。

保育ブロックで遊んでいるところは一団になっていて観察者にはグループに分かれているかどうかかわからないが、子どもたちの会話によるとふたつのグループに分かれているらしい。——
朝のうちは、おいかけたり、打ち合ったりもグループ対グループというよりも個人対個人のようなうだ。

八時五十分

Nは保育ブロックで組み立てたものを、満足そうにみながら、先生のところに行く。

N「これは、そうととり、せんせい、これロボットとそう」といって先生にみせる。

先生「ああら、おもしろいのね。いろいろなものができるのね」といって、先生はNのつくったものをみる。

Eは力いっぱい保育ブロックをあちこちになげている。

先生はEに

「あまり、らんぼうはしないでね」という。

Eは何がしたいのか。
なぜそうしているのだろうか。

Iはロボットをつくっている。

I 「ぼくのはYちゃんのはちがうの」といってIはYとはちがったロボットをつくったことを強調する。

I 「こっちは千両ばりき」という。

YとMがふたりではなしながらロボットをつくっている。

Y 「このロボット三機も仲間にしようか」

M 「ここにおいてね。ぼく、もう一機つくるから」

Iは他の子どもから少しはなれたところでつくっている。

I 「ぼく、A君の仲間だよ。ね、君、君の仲間でしょう？」とたしかめる。

Aがうなづく。

I 「ぼく、A君の仲間だぞ」と大きい声でいう。

Iはうれしそうに、

I 「人工ミサイルです。ブーン」といってロボットをとばす。

Eは他の子どもがつくったものをこわして歩く。

Iはふたつめのロボットをつくっている。

EはIのふたつめのロボットをこわそうとする。

I 「むこうの方(はじめにつくったロボット)をこわした方がとくだよ」といって、Iはふたつめのロボットを大事に持って走ってにげる。

EはIをおいかける。

しばらくして、Eはただ長くつないだものをつくって、ぶらぶらさせている。

YはEのつくったものをみて、

Y 「Eちゃんね、へびロボットだよ」という。

I、A、Y、Nは打ち合ったり、ガソリン入れをつくって、ガソリンを入れたり、ロボットをつくったりして遊びつづける。

万国旗が保育室の角から角へと対角線にかざってある。

先生は万国旗が一枚とれてなくなっているのに気づく。

先生「あら、一枚とれたのかしら」という。

Dは先生のことばをきいて、先生のところに来る。

D 「チリかな」といって、万国旗をみあげて一枚ずつ、ずっとおわりまでいねいにみて歩く。

D 「あっ、チリは二枚あるから、ちがうな」

先生「そう」と先生はおどろいていう。

D 「日本かもしれない」といってさっさと庭に出て行く。

Dはチリの国旗に関心があった。Dはチリの国旗が二枚あるかどうかにとっても関心があった。それを確かめるために、Dはたくさんある万国旗を一枚ずついねいにみて歩いた。

そして、チリの国旗が二枚あることがわかると次の活動がはじまった。Dには他の国旗が一枚なくなっていることには関心はない。日本かもしれないといって、さっさと遊びはじめ

た。

「今日の当番だけかしら？」といいながら、先生は保育室の入口のすぐそばにかけてある当番の札をみる。

先生「⑩ちゃんね。⑩ちゃんはきてたわね」といいながら、庭に出る。

⑩は砂場で遊んでいる。

先生は⑩のところに行き、当番のリボンをつける。

先生は子どもの机に向かって、保育ブロックで遊んでいるYとはなしながら、運動会の時のリレーのメンバーをかいている。

先生「Yちゃん、リレーしたことある？」などといいながら、書きつつける。

Uが登園して先生のところにくる。

U「おはようございます。きょう、お当番よ」といってUに当番のリボンをつけてあげる。

M、O、N、Eが机に向かって絵をかいている。

九時十分

先生は保育室をでる。

しばらくして保育室に帰ってくる。

先生は保育ブロックが部屋中にちらばっているのをみる。保育ブロックが遠くの机の下にも飛んでいる。

「机の下にもはいつているわよ。今、三歳児の部屋に行ったら、きれいにつかっていたわ。部屋中ちらかしておくのはちょっとおかしいわね。いらぬのはままとめておきましょうよ。ちょっと、せんせい、はずかしくなっちゃったわ」といって、先生はばらばらにあちこちに散らかっている保育ブロックをあつめる。

Eも先生に手つだって片づける。

片づけおわると

E「ぼく、やめた」といって庭に出る。

保育ブロックで遊んでいた他の子どもたちもみんなやめて庭に出る。

Eは砂場に行く。

Yは一度庭に出て、また保育室にもどり、保育ブロックで遊ぶ。他の子どもたちはたいこ橋に行く。

Eが保育ブロックをなげたり、他の子どもがつくったものをこわしたりしたので、保育ブロックはいつもよりちらかっていた。保育ブロックがちらかっていることを先生に注意されて、子どもたちは保育ブロックを片づけたが、保育ブロックの遊びをやめて他の遊びにうつっていった。Yだけ、また保育ブロックで遊びはじめた。

九時十五分

砂場

①、②、③、④、⑤が五人で遊んでいる。

男児E、F、Dが砂場に入って来て、女兒のグループと少しはなれたところで遊びはじめる。

女兒のグループは大きい穴を掘って、その中に水をためている。

長い疎水をつくり、ある一点で百二十度くらいにまげて、まがりかどに大きい山をつくる。

山にトンネルを掘る。

ばけつ四個、ふるい三個、じょうろ三個、丸太一本をつかっている。

先生が庭に出てくる。

女兒の砂遊びをみて、

「とってもいいのができたわね」という。

しばらくして、

①「わたし、自分でやるわ」といって、他の三人からはなれて、ひとりであそびはじめる。

①は自分の主張をとおすのに夢中になると、他の子どもがいつていることをうけいれられなくなる。

そうすると、ひとり遊びはじめる。

①にはひとり遊ぶ時間があることは大切なようだ。

Dが女兒のグループのところにバケツをとりに来る。

D「ね、ばけつ、ひとつかして」という。

①「わたしたち、四つしか、つかっていないのよ」という。

Dはしばらく交渉して、大きいばけつをひとつもらってくる。

D「こんなに大きいのが、くれたんだ」と得意になって、男児のグループの子どもたちにもせる。

Eは砂山をもりあげて、底面積のひろい低い山をつくる。山の上にはばけつをななめにふせておく。

ばけつのまわりに砂をかぶせて、ばけつの端くらい砂にうずめる。短い管を砂山にさしこむ。水をくんできて、管から水をながす。

管の中をのぞきこむ。

E「はやく、水だ、じゃん、じゃん、くんでこい」といって、いそがしそうに砂でばけつをうずめていく。

他の子どもたちは、ばけつに砂を入れて、その中に水を入れて、セメントをつくっている。

砂のセメントができあがると、運んできて、Eがうずめたばけつのまわりを、セメントでぬりはじめる。

Dがみんなのようすをみていて、

D「じゃん、じゃん、くんでこい。じゃん、じゃん、くんでこい。だれがくんでくるんだ。ぼくがくんでこよう」といって水をくみに行く。

I「入れて」といって入ってくる。

E 「ぼくがくもう」と水をくみにいく。

F 「セメントがなくなつた」といって、F はばけつを持ってわざわざ遠くの方へ砂をとりに行く。(砂場なので砂はすぐ足もとにもあるのだが)

F は砂の入っているばけつに水を入れてセメントをつくる。

F 「セメント、できました」といって、セメントの入っているばけつを運んでくる。

E はIやDがくんできた水をうけとって、管から水を入れる。

みんなで頭をよせて、管の中をのぞく。

E 「いくよ」といって管に水を入れる。

I は砂にうずめたばけつをタンクにみたてて、第一タンク、第二タンクといつて、ばけつの底をたたく。

みんなが砂山のふもとに穴を掘りはじめる。

E 「Eちゃんが生ひとりで掘る。みんなは掘らなくてもいい」という。

九時三十分

E がもうひとつ、ばけつをふせて砂をかけて、管から水を入れる。

F が水をくみに行く。

D 「はやく、水」という、

F がまた水をくみにいく。

みんなが砂のコンクリートでばけつをかぶせていき、ばけつがみえなくなる。

大きいばけつをふせておく。

どろどろのコンクリートをかける。

このようにして次々とばけつをコンクリートの中にうずめていく。

保育室ではS、B、Kが保育ブロックで遊んでいる。

H、O、M、Y、N、Rが絵をかいている。

①、②、③、④、⑤、⑥、⑦、⑧が絵をかいている。

九時三十五分

D は山の横から穴を掘る。

E は管から水を入れる。

D が掘った穴から水がでてる。

「でた、でた」とみんなが「きゃあ、きゃあ」といいながら、水の出てくる場所に大いそぎでばけつをふせておく。

それから、砂をかぶせる。

ばけつのまわりをセメントでぬる。

「やーまのくーみ、おかたづけ」という声が保育室からきこえてくる。

E 「えっ？おかたづけ？」といつて、子どもたちは一瞬にして、現実にもどる。

「やっつけろ」といって、あつというまに山をくずし、ばけつを掘り出す。

子どもたちはまわりの砂を手ですっかり平らにし、保育室に入る。

Dは保育室へ行く途中、砂場に深い穴をみつける。

「おとし穴だから、とっておこう」といって満足そうに、保育室に入っていく。

◎が砂でどろどろになっている。

先生は◎をみて、洋服をきかえさせる。

絵をかいていた子どもが先生に絵を見せにくる。

先生は子どもの絵を見ながら、◎の洋服のファスナーをとめる。

保育室では、片づけがはじまっている。

先生「みんな、おてつだいしてあげてちょうだいね」と子どもたちという。

子どもたちはまわりを片づける。

朝、先生が子どもの名前を書いていた紙が黒板にはってある。

マジックで、背の高きの順によって子どもの名前がかいてある。

子どもたちは、だいたい片づけおわる。

先生「できたかたはおてあらいにいつて、背の順に並んでちょうだい」という。

子どもたちは黒板の紙をみながら、

「ぼく、Yちゃんのみ」

「ぼく、Oちゃんとだ」といっている。

る。

「ぼく、Sちゃんをさがさなきや」

子どもたちは、紙にかいてあるように、庭にならぶ。

先生は子どもの名前をかいた紙を黒板のところから持ってくる。

先生は紙をみながら、子どもたちをひとりずつみていく。

「あら、みんな、上手ね」といって、子どもたちをみわたす。

子どもたちは並んで、先生のあとについて小学校の運動場に行く。

「運動会と同じことをやるんだよ」などといひながら並んで歩いて行く。

(つづく)

(お茶の水女子大学)

幼児の教育 第六十七卷第二号

二月号 © 定価八〇円

昭和四十三年 一月二十五日印刷

昭和四十三年 二月 一日発行

東京都文京区大塚二ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

編集兼 津 守 真
発行者

東京都文京区大塚二ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

東京都板橋区志村一ノ一

印刷所 凸版印刷株式会社

東京都千代田区神田小川町三ノ一

発売所 株式会社 フレーベル館

振替口座東京一九六四〇番

◎本誌御購読についての御注文は発売所 フレーベル館 にお願ひいたします